

想ひで惟い (おもいでおもい)

葬式

～記念日の想いでをデザインする着物レンタル～

KANEMATA ANNIVERSARY STYLEBOOK



喪服とは、元々、亡くなった方の遺族だけが、喪中に着用する服で、
弔問客は喪服ではなく、普段着で参列していました。

この理由は、近親者には死の穢れが潜んでいる“という言い伝えにより、
親族は「喪に服する」意味を込めて、喪服を着ることが義務付けられていたからだそうです。

今では喪服とは、誰かが亡くなったとき喪中の人が着る服であり、
葬儀に参列する人々が弔意を表すために着る服でもあります。

また、自分が悲しんでいることを示すための服装です。

江戸期まで日本の喪服といえば白い和装が基本でしたが、
明治維新を迎えるとともに上流階級から欧米のブラックフォーマルにならう風潮が生まれました。



◎葬式の一般的知識



服装について

[男性]

無地のホワイトシャツに黒ネクタイ・黒のスーツ・黒系の靴下が基本です。

[女性]

黒以外でも紺など地味な色で派手にならない落ちついた服でも大丈夫です。化粧は控えめにしてアクセサリは付けません。アクセサリは結婚指輪はOKですが、光るものと毛皮などの殺生したものは基本的に付けてはいけません。どうしても身につけたい場合には涙を表すと言われる真珠のネックレス程度にしておいたほうが無難です。(ネックレスは1連です。2連などは不幸を重ねる意味となります。)

[制服のある学生]

喪服をお持ちでない場合には学校の制服でかまいません。

[制服の無い学生や未就学児]

黒系の地味な服装でかまいません。

●基本は落ちついた服装です。オシャレと礼儀は別ものなので、礼をつくし喪に服す場で目立つ必要はありません。

●急な場合も多いのでレンタルなどを利用されても良いと思います。



学生は制服でも良い

アクセサリは真珠のみOK

この冊子は、お葬式の意味合いや服装についてを知っていただくこと、
最後の時間をより一層、大事にに過ごしていただくために生まれました。
衣裳を貸すだけではなく、皆様の想いに沿えられたら、と思います。

カナマタ衣裳店 スタッフ一同

KANEMATA

— つなぐ想いで —

〒475-0855 愛知県半田市中町1-74

TEL 0569-21-1085

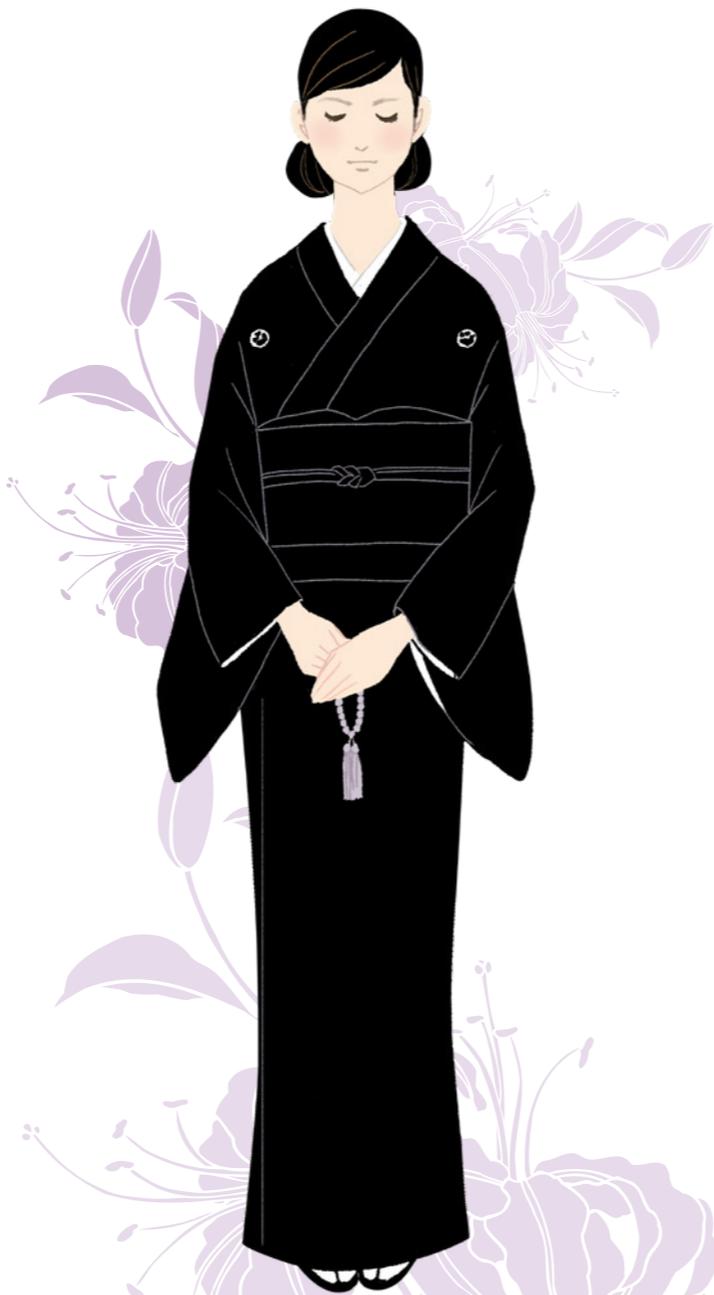
AM9:00～PM6:00[定休日:水曜]

(祝日の場合は営業)



ネットレンタル
喪服

CEREMONY STYLE & MANNERS



数珠

数珠は宗派ごとに決まった形の「本式数珠(二重)」とどの宗派でも使える「略式数珠(一重)」があります。通常のお葬式などは略式のもので十分です。玉の大きなものが男性用、小さなものが女性用です。宗派にもよりますが略式であれば何色でも問題ありません。数珠の持ち方としては左手に掛け、輪の中に右手を入れ合掌します。座って読経などを聞いている時は左手首にかけ、焼香などで歩く必要がある時は房を下にして左手で持ちます。左手で持つのは、左手が仏の清浄な世界を、右手が我々の世界を指しているからです。焼香の際には、宗派によって持ち方が変わります。基本的には合掌し、親指と人差し指の間に数珠をかけます。長い数珠を一連のままで使う場合は、中指に掛け渡して手を合わせます。

合掌の時



持ち歩く時



小物

黒喪服の小物(帯揚げ・帯締め・バッグ・草履)はすべて黒となります。また草履は光沢のないものがおすすめです。



バッグの使い方
入れておく
良い物

香典・数珠・財布・ハンカチ・ティッシュ・携帯・ストッキングの予備

紋について

結婚前に作った着物は「実家の紋」が入り結婚した後に作った着物なら「嫁ぎ先の紋」となります。これは喪服の場合も同じです。「女紋」といって女性だけが引き継ぐ紋も地方によってありますがこの場合の紋の数は五つ紋になります。レンタルで喪服の着物を選ぶこともできますが、この場合の紋は「五三の桐」であることが多いです。紋を変更したい場合は「貼り紋」という方法もあります。



長襦袢について

長襦袢は着物と肌襦袢との間に着る下着の一種です。一般的に留袖と喪服を併せて作られた場合、長襦袢は一枚でどちらにも着られるように作られます。その為、片方が着られなくなったからといって長襦袢も一緒に処分してしまうといったことの無いようにしてください。

袷・単衣・紵

〔黒喪服について〕
喪服と言われ思い浮かぶのが黒地の喪服。黒無地に日向五つ紋をつけたものが喪の装いで第一礼装です。
〔季節による使い分け〕
他のお着物と同様に「袷(あわせ)・単衣(ひとえ)・紵(ろ)」と季節による使い分けが必要です。
10月～5月までが袷仕立。
6・9月は単衣仕立。
7・8月は紵の紵仕立。



〔正喪服〕

正喪服は最も格式の高い装いとされており、正喪服を着用するのは喪主の妻・遺族など故人と関係性が深い方や葬儀を主催する側の立場の人が着用します。

男性は和装あるいはモーニングコート、女性は和装かブラックフォーマルと呼ばれるワンピースまたはアンサンブル。

素材は黒の無地で、透け感のあるものはNGです。

スカートの丈はひざ下からくるぶしまでが基本で肌の露出が極力少ないものが原則。

一般の参列者が着用すると格式が高くなりすぎてしまうため、ふさわしくありません。

〔準喪服〕

準喪服は弔事のほとんどのシーンで着用できる一般的な喪服です。お通夜・告別式・一周忌までの法要など、どんな立場の方でも幅広く着用できます。

男性はブラックスーツ、女性はブラックフォーマルまたはスーツ。

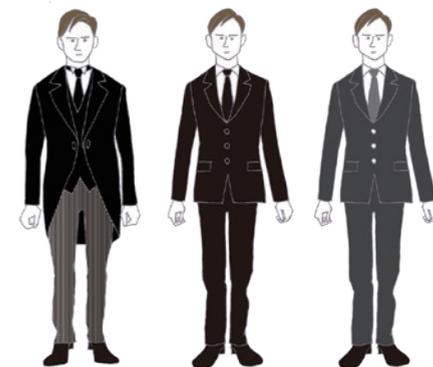
準喪服は遺族をはじめ、一般参列者も着用可能です。

〔略喪服〕

略喪服は「略」とあるようにお通夜、告別式にはふさわしくありませんが、お通夜の前に取り急ぎ駆けつける際や三回忌以降の法要などで参列者が着用します。

男性はダークスーツと呼ばれる、黒あるいは濃いグレーなどの地味な色合いのスーツが一般的。

女性は黒やグレーなどの地味な色合いのワンピース、アンサンブル、パンツスーツなどです。



正喪服

準喪服

略喪服